

水稲の出穂予測と今後の水管理（少雨・渇水対策）について

- 県内の水稲は、**平年より3日早く**出穂期を迎える見込みです。
- 高温による品質低下を防ぐため、**かんがい水の状況に応じた水管理**を徹底しましょう。

1 水稲の出穂予測

県内の水稲の生育は平年より1日早く進んでいます。今後も**気温がかなり高くなる**予報のため、**平年より3日早い**7月29日頃に出穂期を迎える見込みです（表1）。

表1 水稲の生育ステージと出穂予測（生育診断ほ：各農業改良普及センター調べ）

地帯・品種名	幼穂形成期			出穂期（平年±0℃）			出穂期（平年+4℃）			〔参考〕 R6出穂期 （月/日）
	本年 （月/日）	平年 （月/日）	平年差 （日）	本年 （月/日）	平年 （月/日）	平年差 （日）	本年 （月/日）	平年 （月/日）	平年差 （日）	
北上川上流	7/8	7/11	-3	7/30	8/2	-3	7/29	8/2	-4	8/1
北上川下流	7/7	7/8	-1	7/29	8/1	-3	7/28	8/1	-4	7/30
東部	7/8	7/9	-1	7/30	7/31	-1	7/29	7/31	-2	7/29
北部	7/6	7/8	-2	7/31	8/1	-1	7/29	8/1	-3	7/26
県全体	7/8	7/9	-1	7/30	8/1	-2	7/29	8/1	-3	7/31
ひとめぼれ	7/10	7/11	-1	7/31	8/2	-2	7/30	8/2	-3	7/30
あきたこまち	7/9	7/11	-2	7/29	8/1	-2	7/28	8/1	-4	8/2
いわてっこ	7/7	7/10	-1	7/31	8/1	-1	7/30	8/1	-2	7/29
白銀のひかり	7/4	7/7	-3	7/28	7/27	+1	7/27	7/27	0	7/27
銀河のしずく	7/4	7/6	-2	7/27	7/31	-4	7/26	7/31	-5	7/29
金色の風	7/9	7/9	0	8/1	8/2	-1	7/30	8/2	-3	8/1

1) 出穂期：幼穂形成期の令和7年の実測値から、発育指数（DVI）とアメダス日平均気温を用いた予測式により推定。
⇒日平均気温は予測日（7/20）より前の期間は現況値、予測日以降は平年値を使用。白銀のひかりはいわてっこの予測式を代用。
（±0℃は予測日以降の気温を平年値で予測した値、+4℃は平年値より気温が4℃高く推移した場合の予測値）
2) 県全体の数字は、各地帯の作付面積比による加重平均。
3) 幼穂形成期及び出穂期の平年値は、原則、令和2年から令和6年までの5か年平均値（白銀のひかりは令和6年の値）。

2 今後の水管理（少雨・渇水対策）について

(1) 出穂・開花期の水管理

- ・この時期の水稲は大量の水を必要とするため、**浅水での湛水管理**を基本とします。
- ・暗きょや排水口を閉じ、**田面が露出しない**ように管理しましょう。

(2) 登熟期の水管理

ア 十分なかんがい水を確保できない場合

- ・取水制限などによりかんがい水が不足する場合は、**間断かんがい**を実施せず、**土壌を常に湿潤状態**（足跡に水が少したまる程度の状態）に保つ管理を行いましょう（写真1）。
- ・土壌の乾燥は品質低下につながるため、実施には十分に注意してください。

イ かんがい水を十分に確保できる場合

間断かんがいを基本とし、水のコまめな入れ替えや、**夜間入水**を行ってください。

【管理の目安】

湛水：2～3日（水深は3cm程度まで）

落水：1～2日（水たまりが消え、湿り気を目や手で触れて確認できる程度まで）



写真1 土壌の湿潤状態

限りある用水を有効に活用するため、**かけ流しかんがい**の実施は控えましょう。